

INTIMATE PERSPECTIVES ON NORTH KOREA

この度、第18回 Reminders Photography Stronghold グラントを受賞したファビアン・ムイル「Intimate Perspectives on North Korea」の写真展を開催いたします。2018年6月に申し込みが締め切られた

第18回 RPS グラントでは2名の受賞が決定しました。

Guillaume Simoneau のプロポーザル「MURDER」と Fabian Muir のプロポーザル

「Intimate Perspectives on North Korea」です。

審査員は、ベギー・スー・アミソン、マリー・レリーヴル、

トゥーン・ファン・デル・ハイデン、エリック・ブルーン、エメリン・ヤング、アンドレイ・ポリカノフ、ディーン・チャブマンの7名です。

本展会期中には作家本人も来日致します。是非、期間中にお越し下さい。

会期

2019年8月17日(土)ー8月31日(土)

午後1時ー午後7時 会期中無休、入場無料

※初日の8月17日のみ午後6時からオープンとなりますのでご注意ください。

オープニングレセプションおよびアーティストトーク

8月17日(土)午後6時から

会場

Reminders Photography Stronghold
東京都墨田区東向島2-38-5



Reminders Photography Stronghold Gallery

これは朝鮮民主主義人民共和国での2年間に撮影した写真からセレクトしたものだ。訪問者たちに課された制約の中で、このシリーズが試みているのは、この国と人々の公正で、正直で、親密な描写をすることだ。

私達が目にする北朝鮮の画像や映像の多くが孕む問題は、平壤のみに重きを置かれ、その多くが北朝鮮へ一度行っただけの写真家によって撮影されているという点だ。首都の平壤は国全体を代表しているわけでは全く無い。平壤に焦点を当てた写真シリーズのほとんどは、残念ながら巨大建築、有名な地下鉄、パレードなどを描写しているだけで何も新しいものはなく、また北朝鮮全体における生活が一体どのようなものなのかもほとんど引き出されてはいない。

その一方、一部の写真家たちは、平壤から写真を秘密裏に持ち出した自分は「英雄」だということを強調させるという物語に抗うことができない。このようなプロジェクトは、主題と同じくらい写真家自身がストーリーの中心となってしまふ。しかし現実には、違法と見なされるのは兵士や建設作業員の写真のみで、国を出るときにカメラをチェックされるようなことも無いのだ。

これらすべてが、北朝鮮の歪められた常套句的な理解を招いてしまう。特にこの理由から、私がここに提示する写真は国全体で撮影されたものであり、平壤で撮影されたものは2枚だけである。

正直に言えば、北朝鮮で撮影することは容易ではない。しかし、多くのことを見て体験することは可能である。何度も北朝鮮へ渡航した中で、あらゆる所で見かける指導者たちの肖像などのよくあるクリシェを繰り返すだけではないイメージ、そして、あまり知られていない、親密さを持った(北)朝鮮を撮影した。

多くの主要メディアが見せるように、悪政と絡んだ北朝鮮というのはあまりにも単純化されている。このささやかなシリーズが少しだけでも深く掘り下げ、人々を北朝鮮への短いながらも興味深い旅へと連れ出し、思いがけない視点を与えてくれることを私は希望している。

ファビアン・ムイル

ファビアン・ムイル | Fabian Muir

オーストラリア人写真家。彼のプロジェクトと仕事の主要な動機は、人道問題に焦点を当てたビジュアル・ストーリーテリングである。ムイルの写真は個展、グループ展、各国のフェスティバルで展示されたほか、著名なコレクションにも収められた。「Blue Burqa in a Sunburnt Country」(2014年)、「Urban Burqa」(2017年)というタイトルのファインアートのシリーズは、社会的挑戦と難民に対する不当な行為を撮影したものだ。2年をかけて撮影した北朝鮮の日々の生活は、各国のプレス、テレビ、ラジオなどで取り上げられた。ムイルはエディー・アダムズ(アメリカ)から学び、Michael Reid ギャラリー(シドニー、ベルリン)の所属作家。マグナム写真賞(入選)、マイアミ・ストリートフォト・フェスティバル(入選)、PDN エマージングフォトグラファー賞(受賞)、FotoEvidence ブック賞(入選)、ソニー WPA/ ツァイス写真賞(入選)、Reminders Photography Stronghold (東京)プロジェクト(入選)およびグラント受賞。
<http://www.fabianmuir.com>

RPS グラントについて

RPSに企画展を提案して頂き、RPS 審査委員会の審査を通過された方に、RPS ギャラリースペースを5日以上(最高20日まで) 無償でご利用いただけます。対象:写真家、キュレーター、ギャラリスト、ほか。更なる詳細はこちら→<http://reminders-project.org/rps/grantjp/>